

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：27501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K11133

研究課題名(和文) 女性外国人技能実習生のリプロダクティブヘルスニーズに対する支援の構築

研究課題名(英文) Building support for reproductive health needs of female technical intern trainees

研究代表者

篠原 彩 (Shinohara, Aya)

大分県立看護科学大学・看護学部・助教

研究者番号：10816929

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：女性技能実習生を含む女性外国人労働者のリプロダクティブヘルスニーズに関する支援の充実を図るため、健康支援に関する担当者等のコンピテンス評価尺度を作成することとした。まず女性技能実習生の月経状況や相談行動を調査したのち、担当者等へのインタビュー調査から女性技能実習生の健康や生活に関する視点を明らかにした。インタビュー結果や先行研究から抽出した52項目を5年以上の経験を持つ担当者等8名に、内容妥当性(content validity)を評価してもらい、各項目の内容妥当性指数を算出し、十分な評価を得た46項目を女性外国人労働者への健康支援に関する担当者等のコンピテンス評価尺度原案とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今後さらに増加が見込まれ、また新しい制度への移行に伴い中・長期にわたり在日する技能実習生を含む女性外国人労働者のリプロダクティブヘルスニーズへの支援を構築することは喫緊の課題である。彼女たちの身近な存在であり、生活や健康支援を担う担当者らがコンピテンスを持って彼女達のニーズに対応し、必要時に保健医療の専門職につなげられることが望まれる。そのため、これまで担当者らの経験や努力にのみ頼っていた健康支援に対して、評価項目を設けることは、支援の充実につながるだけでなく、人権保護の面からも意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：In order to improve support for the reproductive health needs of female migrant workers including female technical intern trainees, supervisors' competence scale regarding health support to assess was developed.

First, the menstrual status and consultation behavior of female technical intern trainees after migrating to Japan were examined. Supervisors' perspectives of female technical intern trainees on their health and lifestyle were identified through interviews. Fifty-two items extracted for the scale from the interview results and previous studies were evaluated for content validity by eight supervisors with more than five years of experience, and content validity index was calculated for each item. The 46 items that received a sufficient evaluation were used as the initial items for a Health Support Competence Scale for Supervisors of female migrant workers.

研究分野：外国人労働者の健康支援

キーワード：外国人労働者 女性 技能実習生 リプロダクティブヘルス

1. 研究開始当初の背景

2018年10月時点では、国内に在留する外国人労働者数は約146万人(前年同期比14.2%の増加)、そのうち技能実習生は約31万人(同19.7%増)である。政府は技能実習制度における新たな対象職種・作業の追加および拡大について検討を進めていく方針(経済財政運営と改革の基本方針2018)を示していることから、今後さらなる技能実習生の増加が見込まれる。

申請者が、2018年に大分県内のベトナム人女性技能実習生に来日後の体調の変化についてインタビュー調査を行ったところ、ニキビなどの皮膚疾患(約6割)や月経異常(約8割)を経験しており、ホルモンバランスの変調による女性特有の症状を経験していることがわかった。実習生の中には月経異常を感じながらも誰にも相談できず症状が悪化している者もいた。インタビューを行った実習生の多くは20代前半(平均年齢23歳)であり、生殖機能が成熟期を迎える時期に月経異常を静観することは、リプロダクティブヘルスの観点からも問題であると考えられる。

外国人技能実習生を受け入れる中小企業は、実習生の受け入れから技能実習の監理までを商工会、公益法人、農・漁業協同組合などの監理団体に委託する。監理団体の実習生担当者へのヒヤリングでは、実習生の体調不良への対応も生活支援の一部として実施されていることがわかった。こうした文化や言葉が違う実習生の体調の訴えを把握することは、監理団体担当者のヘルスリテラシーや多文化リテラシーが大きく関与する可能性がある。また、これらの配慮を効果的に行うためには実習生の文化的背景の理解が必要であり、その理解が乏しいと変化に気づきにくいと予想される。来日から帰国まで長期にわたり実習生を見守る監理団体担当者は、健康・生活環境への配慮や健康問題の早期発見が可能な人材であるが保健医療や人類文化の専門家ではなく、健康や多文化共生に関する意識も様々である。さらに、監理団体担当者の大半は男性であり、女性技能実習生の女性特有な症状への対応を躊躇したり、把握は難しいと感じていることが推察される。

今後、さらに技能実習制度を活用した外国人労働者の受け入れを拡大する上で、リプロダクティブヘルスにも影響すると考えられる健康課題への支援体制を構築することは急務であると考えられる。

2. 研究の目的

- 1) ベトナム人女性技能実習生を対象に、月経異常の実態およびサポート授受の状況、対処行動に影響を与える要因について明らかにする。
- 2) 監理団体担当者を対象に、日頃行っている健康・生活環境への配慮および女性技能実習生の女性特有な身体の不調への気づきについてインタビューにより明らかにする。
- 3) インタビューの分析結果および先行研究を基に、技能実習生を含む女性外国人労働者への健康支援に関する担当者等のコンピテンス評価尺度項目を抽出し、内容妥当性について分析後、評価尺度原案を作成する。

3. 研究の方法

- 1) **ベトナム人女性技能実習生を対象とした月経異常の実態と対処行動に関する質問紙調査**
文化変容ストレスと月経異常およびその対処行動への影響を評価するため、Acculturative Stress Scale (Sandhu and Asrabadi, 1994)を用いた。質問紙は英語で作成した後ベトナム語に翻訳し、さらに逆翻訳を行い整合性を確認した。大分県内で最も高い割合を占めるベトナム人女性技能実習生を受け入れている一般監理団体5~8社を通じ、質問紙を配布した。返却された回答用紙を分析し、月経異常・サポート授受の実態とその対処行動に影響を及ぼす要因を明らかにした。
- 2) **技能実習生を含む女性外国人労働者の担当者を対象としたインタビュー調査**
1) の結果で明らかになった内容を踏まえ、監理団体担当者が行っている健康・生活環境への配慮、また女性技能実習生の女性特有な身体の不調への気づきを明らかにできるようにインタビューガイドを作成した。
外国人技能実習機構に登録されている大分県内の一般監理団体12社(2019年10月時点)のうち、技能実習生を含む女性外国人労働者を受け入れている監理団体や事業所の担当者15~20名程を対象に半構成的インタビューを実施した。インタビュー結果を質的に分析し、担当者等による配慮および女性技能実習生の女性特有な身体の不調への気づきについて明確にした。
- 3) **女性外国人労働者への健康支援に関する担当者等のコンピテンス評価尺度項目の内容妥当性の検証**
2) のインタビューの分析結果と先行研究から52項目を作成した。この52項目について、女性外国人労働者の担当者として5年以上の経験を持つ担当者等8名に、内容妥当性(content validity)を評価してもらった。Lynn (1986) の評価方法に基づいて、各項目の内容妥当性指数を算出した。

4. 研究成果

1) ベトナム人女性技能実習生を対象とした月経異常の実態と対処行動に関する質問紙調査
 技能実習生の中でも増加しているベトナム人女性技能実習生を対象として、来日後の月経悪化と月経に関する相談行動に影響を及ぼす関連要因を明らかにすることを目的に、ベトナム語での無記名自記式質問紙調査を行った。調査の結果は下記の通りである。

- ① 対象者の約25%が来日後、月経悪化を経験していた。しかし、そのことを月経問題だと認識している者は少なかった。ベトナムでの就業経験の有無と来日後の月経悪化との関連が示唆された。
- ② 月経問題があると感じたほとんどの実習生は、同胞の同僚や友人に相談をしていた。しかし、監理団体関係者や日本人の同僚に相談していた者はいなかった。
- ③ 文化変容ストレスと月経悪化および月経に関する相談行動との関連は認められなかった。しかし、母国で月経不順はなく、来日後、月経悪化を経験していた実習生の文化変容ストレススコアは月経悪化群全体より高く、また、月経問題の相談をしていない群のスコアも相談した群より高かった。
- ④ 月経教育を「学校で受けた」と回答した対象者は約12%で、「母親」から教わったと回答した者が最も多かった。月経周期について「計算方法がわからない」また誤った回答をしていた者が約16%いた。また、約60%の実習生が、母国で月経不順があったと回答した。調査結果から、ベトナム人女性技能実習生は、月経を含めた女性の二次性徴や妊娠・出産の生理などについて系統的な情報を持ち合わせていないことや異なる文化圏での生活により生じる文化変容ストレスが、月経悪化として現れている可能性が推察された。
- ⑤ 文化変容ストレスと月経悪化、月経周期に関する知識に焦点を当て、さらに分析を行った。分析結果では、文化変容ストレスと年齢、および月経周期に関する知識において関連がみられた。確かな情報源より健康に関する知識を得た実習生は、ストレスへ対処するための資源を持ち合わせていることが考えられた。

来日後、起こり得る女性特有な体調の変化について、実習生の社会的背景や文化変容ストレスを考慮した教育や支援を検討する必要があることがわかった。女性技能実習生の身近にいる担当者等が、女性特有な症状にも影響を与える文化変容ストレスについて理解を深め、実習生の個々の背景を踏まえた対応を行うことが望まれる。また、女性技能実習生の健康支援の構築に向けて、リプロダクティブヘルスを含む実習生の健康や生活に関する日本人担当者等の対応の充実が重要と考える。

2) 技能実習生を含む女性外国人労働者の担当者を対象としたインタビュー調査

女性技能実習生の健康や生活に関する監理団体担当者等の視点を明らかにすることを目的として、インタビューを実施し分析を行った。女性技能実習生を担当する監理団体担当者や実習指導者は、実習生とのかかわりを通して醸成された保護者的意識を基盤に言葉・文化への配慮、そして健康支援を行っていた。しかし、文化の異なる実習生への対応を学ぶ機会もなく、あくまでも経験に基づいた配慮や支援であった。そのため、担当する実習生の国籍や年齢の幅が広がったことで、ニーズや健康障害も多様になり困難感を感じていた。また女性特有な症状については、文化や習慣の違いから対応の難しさを感じていた。さらに性に関する考え方の違いを知り異性交際について懸念していた。そのため実習生の行動や意思を確認しながら、予期せぬ妊娠について注意を促していた。しかし、具体的に保健医療の専門家による知識の提供機会を持つことは行っていなかった。このように女性外国人労働者への健康支援は、担当者等が経験に基づき、個々の努力で配慮や支援が成り立っている状況であることが分かった。

表1 女性外国人労働者の健康や生活に関する担当者等の視点

Theme	Sub-theme
醸成された信条と役割	醸成される保護者的な意識と対応 実習生間のトラブルや相談に向き合う支持的な姿勢 実習生との関係構築に欠かせない積極的なコミュニケーション 実習生が地域や職場とよりよい関係性を持つために設けたい交流機会 実習生と職場の関係構築を担うリエゾンとしての役割 月日の経過に伴う実習生の変化を見守る姿勢
	健康への影響を予測して行う実習生の食生活への配慮 実習生の年齢や文化の多様化を認識 実習生の健康問題への対処の違いを認識 実習生の身体的症状への気づきと対応 実習生の精神的健康状態の把握 実習生の訴えに応じて行う受診支援 実習生の婦人科症状への配慮や対応 実習生に理解を求める日本の衛生観念 実習生の文化を背景とした生活習慣や国民性の違いを認識 実習生の状況に配慮して行う買い物支援
言葉に関する配慮	実習生へ伝わりやすい表現や方法の工夫 実習生の日本語力向上を阻む背景と懸念 実習生の理解を得るために不可欠な通訳との連携
異性交際への懸念	実習生の異性交際から起こりうる問題への懸念 実習生に望む正しい知識や認識のもとでの異性交際

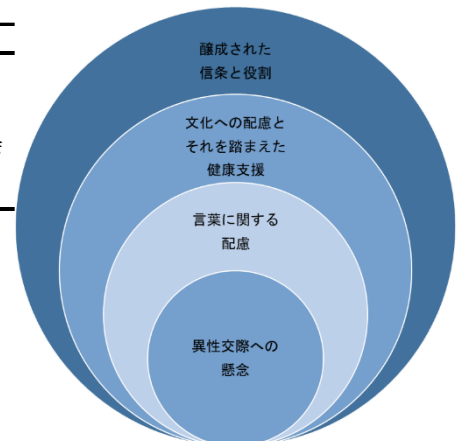


図1 女性外国人労働者の健康や生活に関する担当者等の視点の関係

3) 女性外国人労働者への健康支援に関する担当者等のコンピテンス評価尺度項目の内容

妥当性の検証

監理団体や実習施設の担当者等がコンピテンスを持って女性技能実習生への健康支援を行うことができるよう、インタビュー結果と先行研究を基に項目を抽出し、評価項目を作成した。この評価尺度は、女性技能実習生を含む女性外国人労働者への健康支援を行う上での担当者等のコンピテンス評価尺度として、「女性外国人労働者への健康支援に関する担当者等のコンピテンス評価尺度」と名付けた。インタビュー結果と先行研究から 52 項目を作成した。この 52 項目について、女性外国人労働者の担当者として 5 年以上の経験を持つ担当者等 8 名に、内容妥当性(content validity)を評価してもらった。Lynn(1986)の評価方法に基づいて、各項目の内容妥当性指数を算出し、十分な評価を得た 46 項目を評価尺度原案とした。

今後、評価尺度原案の信頼性と妥当性を検証する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Aya Shinohara, Ryoko Kawasaki, Noriko Kuwano, Mayumi Ohnishi	4. 巻 ahead-of-print
2. 論文標題 Interview survey of physical and mental changes and coping strategies among 13 Vietnamese female technical interns living in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Health Care for Women International	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/07399332.2021.1963966	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Aya Shinohara, Noriko Kuwano, Yoshimitsu Shinagawa, Ryoko Kawasaki, Mayumi Ohnishi	4. 巻 19
2. 論文標題 Perspectives of persons in charge regarding support for the health and daily lives of female technical intern trainees who migrate to Japan: A qualitative study	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Rural Medicine	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2185/jrm.2023-039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Shinohara A, Kawasaki R, Kuwano N, Ohnishi M
2. 発表標題 Interview survey of physical and mental changes and coping strategies among 13 Vietnamese female technical interns living in Japan.
3. 学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Scholars（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aya Shinohara, Noriko Kuwano, Yoshimitsu Shinagawa, Ryoko Kawasaki, Mayumi Ohnishi
2. 発表標題 The perception of Vietnamese female technical intern trainees that their menstruation has worsened after migrating to Japan.
3. 学会等名 第7回日本国際看護学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	川崎 涼子 (Kawasaki Ryoko) (30437826)	長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・准教授 (17301)	
研究 分担者	桑野 紀子 (Kuwano Noriko) (30550925)	大分県立看護科学大学・看護学部・教授 (27501)	
研究 分担者	大西 眞由美 (Ohnishi Mayumi) (60315687)	長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・教授 (17301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------